

名前 _____

理科

基本メニュー (☆☆☆) …必ずやりましょう。

	チェック
① 授業用テキストを読み直す (太字になっている部分は書いて覚えるとよい)	
② 宿題用テキストの基本問題A・Bを解く	
③ 週テストの見直し (間違えた問題の見直し)	

応用メニュー (☆☆) …基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題を解く	

担当より一言

今回は「モンシロチョウ」について、卵・幼虫・さなぎ・成虫、それぞれどのような特徴があるのか学びました。特に大切なのは卵と幼虫のときの特徴です。最低限、卵と幼虫のテキスト太字部分は、覚えられているか確認してみましょう。

そして、ただすべてを暗記するのではなく、なぜそのような特徴があるのかを考えることが重要です。卵を葉の裏にうむことや、卵からふ化した殻、脱皮した皮をたべるのは、同じ理由です。天敵から見つかり、食べられてしまうことを防ぐためでした。また、アブラナ科の葉に卵をうむ理由は、幼虫であるアオムシの食草だからです。生き残るため、子孫を繁栄させるためにどうするのか、という生物の大きな目的から考え、答えを出せるように心がけ、単純な暗記の量を減らしましょう。

※G模試の範囲は、第8回～第12回内容となります。

社会

基本メニュー（☆☆☆）…必ずやりましょう。

	チェック
① 授業用テキストを読み、基本問題を解く前に少しでも覚える	
② 宿題用テキストの基本問題A・Bを解く	
③ 週テストの見直し（間違えた問題の見直し）	

応用メニュー（☆☆）…基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題A・Bを解く	

発展メニュー（☆）…チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの発展問題を解く	

担当より一言

今回は、「秋田・岩手」について学びました。今回も、隣り合っている2つの県でしたね。

2つの県を対比したとき、違いとして押さえたいのは夏の気温です。太平洋側の方が夏の気温が低くなっていましたが、この理由はいえますか？

まずは海流です。沿岸を暖流が流れる日本海側に対して、寒流が流れる太平洋側の方が、夏の気温が低くなっていましたね。また、風の影響もありました。寒流の上を吹く、冷たい風のやませのために、夏の気温が低くなっていました。隣り合う県であっても、気候はいろいろな要素を考えなければならないということがわかったことでしょう。

そして、それぞれの県では特徴的な産業も行われていましたね。

まずは岩手県。波がおだやかなリアス海岸ということもあって、養殖がさかんに行われていました。また、沖に潮目があることから、漁港もありましたね。一方の秋田県は、広い平野をいかした農業がさかんでした。とくに米作りですね。あきたこまちは生産量でも日本で上位に位置する品種です。

いよいよG模試後には、47ある都道府県について学んでいきます。ここまで4回にわたって学んできた視点(地形・気候・産業など)をいかし、それぞれの都道府県の特徴をつかんでいきましょう。

※G模試の範囲は、第8回～第12回の内容となります。